



Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.29 2022. 11. 27 発行

力の支配と愛の支配、どっちがいい？

ルカによる福音書2章1-7節

ごきげんよう！

牧師 梅津 裕美

イエスさまがお生まれになった時、聖書の舞台となったパレスチナ地方は強い強いローマ帝国の支配下にありました。皇帝は、全領土の住民に住民登録の命令を出しました。今で言えば、マイナンバーカードのようなもので、どこに誰が住んでいるかを掌握するための住民登録でした。こういう調査は世界史の中でしばしばあるのですが、そこには強い支配者が水も漏らさず税金を集めるという目的がありました。ローマ帝国もその一例でしょう。しかもこの時の調査は、今住んでいる所ではなく「生まれ故郷に行ってそこで登録をせよ」との命令でした。

・・・たとえば、地方から東京に来て暮らしている人々が全員故郷に帰ることになって、民族の大移動が始まります。故郷に帰っても泊まる家が無い人々はどっと宿屋に泊まることになります。そういうわけで、全国旅行支援なんてもんじゃなく、地方の宿屋は空き室なし！ しかも身重のマリアは暮らしていたガリラヤのナザレから夫ヨセフの故郷ユダヤのベツレヘムまで長い距離を大きなお腹で旅しましたから、他の旅行者より遅れるったらありやしない。先に到着した旅人たちが宿屋に納まっちゃって、どこを尋ねても空き部屋はなしでした。やっと見つけた宿がなんと「馬小屋」だったのです。よく降誕劇で演じられるシーン・・・「トントントン、泊めてください」「ダメダメ!」。「トントントン、泊めてください」「部屋はないよ!」。あの冷たいシーンは、宿屋の主人が非情だったからではなく、時の支配者ローマ皇帝の思いやりのない仕打ちでした。身重の人まで長旅をさせて「住民登録せよ」という非情な政策の中、神さまは社会の片隅の馬小屋でイエスさまを誕生させたのです。力の支配に屈しない神さまの愛の支配は、小さな小さな馬小屋の飼い葉桶から始まったのです。愛は、そういうところから芽生えて行くのかもしれないね。このクリスマス、力に屈しない愛の支配が世界の片隅から広がりますように祈ります。



堀内長老からのメッセージ

皆さんが読んでいる聖書を発行した日本聖書協会の雑誌に興味深い話がありましたので紹介します。2020年12月、大阪府東大阪市の枚岡（ひらおか）教会で倉庫を整理していたところ「日本聖書協会」（會は会の古い字）と書かれた木製の箱が見つかりました。箱には「みことばの箱」と書かれ、さらに「ひろくこの世を てらせよとて 主よりわれらは あたへられぬ これやかがやく こがねのはこ まことのたまは うちにみたり」と、戦前（1931年）の讃美歌が書かれています。調べたところ、この箱は聖書を入れて、教会などに届けるための箱でした。戦前から戦後しばらくのあいだ（1969年まで）、コルポーター（聖書普及員）という人たちが聖書が収められた箱で教会に直接届けていたのです。届ける方法も当時の写真には、自転車に積んで運んでいる姿が写っています。いつの時代も大切な聖書、その聖書を私たちはインターネットで注文して数日後には自宅で手にできますが、かつてはこのように各地を訪ね歩いたコルポーターの人たちの苦労があったのです。

